

【本資料の取り扱いについて】

本資料は、「1 はじめに」にあるように「あんまマッサージ指圧師、はり師、きゅう師の国家試験問題と全国の特別支援学校(盲学校)並びに視覚障害関係諸施設において使用されている教科書」の点字表記の統一を目的に作成されたものです。

日本点字委員会第47回総会(2011年6月)の決定を受けて、ホームページ上で公開していますが、ご利用に当たっては以下の点にご留意ください。

1. 国家試験問題や教科書等、理療関係の分野で使用されることを目的とした資料であること
2. よりよい資料とするために、日本点字委員会として引き続き検討を行っている資料であること

医学用語の点字表記について

日本点字委員会

2011年6月30日

I	はじめに	1
II	医学用語切れ続きの指針	2
III	促音、数字表記について	10
IV	数字を含む経穴等の表記	12
V	同音異穴の点字注記	13
VI	漢方薬などの名称の切れ続きについて	17

I はじめに

2011年6月5日、日本点字委員会第47回総会は、それまで4年にわたって討議してきた、医学用語点字表記専門委員会による答申を受けて審議した結果、本書のように決定した。

本書によって、今後のあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の国家試験問題と全国の特別支援学校(盲学校)並びに視覚障害関係諸施設において使用されている教科書等の点字表記が統一されることを望んでいる。

Ⅱ 医学用語切れ続きの指針

1. 短い複合語

区切ると意味の理解を妨げる短い複合語や、短い略語は、ひと続きに書き表す。また、内部に助詞などを含んでいても、1語として熟している短い複合語も、ひと続きに書き表す。

[例]	ハイエン (肺炎)	ハリシ (はり師)	ウノー (右脳)
	ヒンニョー (頻尿)	イチョー (胃腸)	キンマク (筋膜)
	ノーシ (脳死)	ゼツガン (舌癌)	
	テクビ (手首)	ハナカゼ (鼻風邪)	ケアナ (毛穴)
	カタコリ (肩凝り)	フクラハギ (脹ら脛)	ツチフマズ (土踏まず)
	バネユビ (バネ指)	ハイシャ (歯医者)	ムシタオル (蒸しタオル)
	セキソン (脊損)	セキチン (赤沈)	ガンシン (眼振)
	センコダツ (先股脱)		
	カミノケ (髪の毛)	ウオノメ (魚の目)	カンノムシ (疳の虫)

2. 接頭語・接尾語など

接頭語や接尾語または造語要素などで、副次的な意味の成分は、自立可能な意味の成分に続けて書き表す。

[例]	<u>サ</u> シンシツ (左心室)	<u>ダイ</u> ドーミャク (大動脈)
	<u>ケイ</u> シンケイ (頸神経)	<u>シャ</u> コッセツ (斜骨折)
	<u>カ</u> ガイテン (過外転)	<u>ビ</u> シッカン (鼻疾患)
	<u>トー</u> バンジョーキン (頭板状筋)	<u>ガク</u> 2フクキン (顎二腹筋)
	<u>ゼン</u> セイチューセン (前正中線)	
	ハンシャ <u>キュー</u> (反射弓)	トーニョー <u>ビョー</u> (糖尿病)
	ヒナイ <u>シン</u> (皮内鍼)	シンサツ <u>シツ</u> (診察室)
	オトガイ <u>コー</u> (オトガイ孔)	ビタミン <u>ザイ</u> (ビタミン剤)
	シスー <u>ベン</u> (指数弁)	ハイドーミャク <u>コー</u> (肺動脈口)
	リンパセツ <u>シュ</u> (リンパ節腫)	ダイタイコツ <u>ケイ</u> (大腿骨頸)

【注意1】接頭語や造語要素であっても、後ろの成分に対して連体詞的な関係を持ち、意味の理解を助ける場合には、発音上の切れ目も考慮して区切って書き表す。また、語尾の造語要素などが、前の成分を受けているような場合、意味の理解を容易にするために、区切って書き表す。

[例]	<u>コー</u> □ウイルスヤク (抗ウイルス薬)	<u>コー</u> □セイシンヤク (向精神薬)
-----	----------------------------	--------------------------

ヒ□トクイテキ（非特異的）

ヒ□コージョーセイ（非恒常性）

チョー□テイタイオン（超低体温）

ボー□セキチューキン（傍脊柱筋）

ケイ□ジカン□カンセン（経耳管感染）

リョー□ビモーカン（両眉毛間）

アンマ□マッサージ□シアツシ_三□ハリシ_三□キューシ□ト

（あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等）

【注意 2】語頭にある接頭語や造語要素が、マスあけを含む複合語全体にかかる場合には、その後ろを一マスあけて書き表す。

〔例〕 チョー□ボシ□シンキン（長母指伸筋）

セン□ヒコツ□シンケイ（浅腓骨神経）

ナイ□コーモン□カツヤクキン（内肛門括約筋）

コ□セキズイ□シショーロ（古脊髄視床路）

ジョー□ショーノー□ドーミヤク（上小脳動脈）

ダイ□コートー□シンケイ（大後頭神経）

ソー□チョーコツ□リンパセツ（総腸骨リンパ節）

カ□カンセツ□トッキ（下関節突起）

オー□コーガイ□ホーゴー（横口蓋縫合）

キョー□シンゾー□シンケイ（胸心臓神経）

シツ□ジュージ□ジンタイ（膝十字靱帯）

3. 2 拍以下の自立可能な意味の成分を含む複合名詞

複合名詞の構成要素のうち、2 拍以下の自立可能な意味の成分は、区切ると意味の理解を損なうおそれのあるときは続け、独立性が強く意味の理解を助けるときは後ろまたは前の自立可能な意味の成分との間を区切って書き表すことを原則とする。

〔例 1〕 ニョーサイカン（尿細管）

キンボースイ（筋紡錘）

キンセンイ（筋線維）

ノーシンケイ（脳神経）

ハイドーミヤク（肺動脈）

ゼツニュートー（舌乳頭）

カタカンセツ（肩関節）

イアッコン（胃圧痕）

チツゼンテイ（腔前庭）

ハイジュンカン（肺循環）

エンカイナイキン（円回内筋）

イカメラ（胃カメラ）

テツアレイ（鉄亜鈴）

コツカンシ（骨鉗子）

サイボーマク（細胞膜）

タンパクニョー（蛋白尿）

セイタイヒダ（声帯ひだ）

ケッチョーヒモ（結腸ひも）

ソーキガン（早期癌）

ジョーイノー（上位脳）

ハイセイシン（肺性心）

ケツエキガス（血液ガス）

キョクショネツ（局所熱）

シントーアツ（浸透圧）

1 2 シ チ ョー (十二指腸)
ケン コー カ キン (肩甲下筋)
ナイ ブン ピツ セン (内分泌腺)
ム コン キュー (無痕灸)
セ キ ズ イ ネ コ (脊髄ねこ)

3 カ ク キン (三角筋)
セン シ ク ッ キン ケン (浅指屈筋腱)
カイ セン ジュツ (回旋術)
シュ ジュツ ダイ (手術台)

テ サン リ (手三里) コ シ ョー カン (腰陽関) ア シ ゴ リ (足五里)
ノ ー コー ソク (脳梗塞) イ カイ ョー (胃潰瘍)
カン コー ヘン (肝硬変) ハイ キ シュ (肺気腫)
コツ ニ ク シュ (骨肉腫) テ ニス ヒ ジ (テニス肘)
5 0 カ タ (五十肩) ス ペ イ ン カ ゼ (スペイン風邪)
イン ケ イ □ ワ ナ ジン タイ (陰茎わな靱帯)
エイ ン □ ケン チュ ー シン (会陰腱中心)
ジョ ー □ チ ョー カン マ ク □ ドー ミ ャ ク (上腸間膜動脈)
クル マ イ ス □ テ ニス (車椅子テニス)

[例2] キン □ シュ ー シュ ク (筋収縮) キン □ ヒ ロー (筋疲労)
キン □ ト ー ヌ ス (筋トーヌス) ノ ー □ ケツ リ ュ ー (脳血流)
ガス □ コー カン (ガス交換) イ □ ウン ドー (胃運動)
キ ソ □ タイ シャ (基礎代謝) テツ □ タイ シャ (鉄代謝)
ヒ フ □ ハン シャ (皮膚反射) ケン □ ハン シャ (腱反射)
セ キ □ ハン シャ (咳反射) ニ ョ ー □ シツ キン (尿失禁)
コツ □ ハ カイ (骨破壊) コツ □ サイ セイ (骨再生)
ウツ □ ジョ ー タイ (うつ状態) シン □ シツ カン (心疾患)
ノ ー □ ケツ カン (脳血管) コツ □ キ シツ (骨基質)
ジン □ ズ イ シツ (腎髄質) ノ ー □ ジツ シツ (脳実質)
カン □ キ ノ ー (肝機能) ハリ □ シ ゲ キ (鍼刺激)
ドク □ カ ク サン (毒拡散) ネツ □ コー カ (熱効果)
アツ □ バ ラン ス (圧バランス)
カン □ セイ ケン (肝生検) シン □ エ コー (心エコー)
イ □ セン ジョ ー (胃洗浄) ハイ □ セツ ジョ (肺切除)
コツ □ イ ショ ク (骨移植) ハリ □ チン ツ ー (鍼鎮痛)
キュー □ チ リ ョ ー (灸治療) ガス □ メツ キン (ガス滅菌)
イ リ ョ ー □ ミ ス (医療ミス) シカ □ イ シ (歯科医師)
ノ ー □ ゲ カ (脳外科)
ジン □ フ ゼン (腎不全) コツ □ エ シ (骨壊死)
キン □ マ ヒ (筋麻痺) ハイ □ スイ シュ (肺水腫)
ノ ー □ キョ ケツ (脳虚血)

ハイ□キキョ（肺気虚） カン□ケツキョ（肝血虚）
ヒ□ヨーキョ（脾陽虚）
ハイ□センイショー（肺線維症） コツ□ソショーショー（骨粗鬆症）
スイ□コーヘンショー（膝硬変症） ヒザ□クツキョクイ（膝屈曲位）
アツ□ジュヨーキ（圧受容器） チツ□ジョーミャクソー（腔静脈叢）
ゼツ□セイチューコー（舌正中溝） ハナ□アレルギー（鼻アレルギー）
キン□カキンチョー（筋過緊張） コツ□シンチグラム（骨シンチグラム）
ケン□ホーゴーホー（腱縫合法） コツ□ナンコツシュ（骨軟骨腫）
シショー□カブ（視床下部） ナイカ□イシ（内科医師）
ローターター□カフ（ローターターカフ）
アンギオテンシン□ⅢⅢⅢⅢ（アンギオテンシンⅠ）
ケイシンケイ□ワナ（頸神経わな）
トー□フカ□シケン（糖負荷試験）
テイシューハ□ハリ□ツーデン（低周波鍼通電）
イ□ケッチョー□カンマク（胃結腸間膜）
イ□ヒ□カンマク（胃脾間膜）
カ□ヒ□12□シチョー□リンパセツ（下脾十二指腸リンパ節）
キン□イシュクセイ□ソクサク□コーカショー（筋萎縮性側索硬化症）
アツ□ハッカン□ハンシャ（圧発汗反射）
カタ□カンセツ□キコー（肩関節機構）
ノー□シンケイ□ゲカ（脳神経外科）
ノー□シンケイ□サイボー（脳神経細胞）
コージ□ノー□キノー□ショーガイ（高次脳機能障害）
ヒト□タイ□ヒト□ジンコー□コキュー（人対人人工呼吸）

補足1 [例1] には、区切ると意味の理解を損なうおそれのある語を集めた。これらの語は、ひと続きの名称や呼称としての性格が強い。

[例2] には、2拍以下の成分の独立性が強く区切ると意味の理解を助ける語を集めた。これらの語は、成分を列挙して現象や行為等を説明している。

補足2 病気に関係する語に病名と病態の表現がある。病名は、特定の病気を指し示す語であり、6拍以下程度のものでは区切ると意味の理解を損なうおそれがある。脳梗塞、胃潰瘍、肝硬変、肺気腫、骨肉腫、テニス肘、五十肩、スペイン風邪などは、その観点で[例1]に掲げた。

病態の表現は、病気の際に現れる症状や病変などを指し示す語であり、区切ると意味の理解を助ける。腎□不全、骨□壊死、筋□麻痺、肺□水腫、脳□虚血などは、その観点で[例2]に掲げた。

しかし、病名か病態の表現かの判断に迷うものも少なくない。そこで、書き手が両者を区別し難い場合は、病名であっても病態の表現であっても続けて書き表し、病名か病態の表現かの判断は読み手にゆだねることとする。

【注意 1】 2 拍以下の自立可能な意味の成分のうち、独立した名詞と考えられているものは区切って書き表す。

〔例〕 ノー□ゼンタイ（脳全体） ゼツ□ヒョーメン（舌表面）

【注意 2】 漢字 1 字ずつが、すべて 2 拍以下の自立可能な意味の成分で、対等な関係で並んでいる場合には、意味の理解を容易にするために、適宜区切るかすべてを続けて書き表す。

〔例〕 テ□アシ□クチビョー（手足口病）

ノー□カン□ジン□ショーコーゲン（脳肝腎症候群）

カタ□テ□ショーコーゲン（肩手症候群）

モク□カ□ド□キン□スイ（木火土金水）

ボー□ブン□モン□セツ（望聞問切） スン□カン□シャク（寸関尺）

4. 長い複合名詞

複合名詞の構成要素のうち、3 拍以上の自立可能な意味の成分が、二つ以上あればその境目で区切り、2 拍以下の副次的な意味の成分は、そのどちらかに続けて書き表すことを原則とする。

〔例〕 オトガイ□リューキ（オトガイ隆起） カンセツ□ネズミ（関節ねずみ）

アヒル□ホコー（あひる歩行）

イタミ□シゲキ（痛み刺激）

ムスメ□センショクタイ（娘染色体）

ガイソク□ジョーカ（外側上顆）

コーセイ□ブッシツ（抗生物質）

シキュー□ケイガン（子宮頸癌）

ケツアツ□ソクテイ（血圧測定）

テキシュツ□シュジュツ（摘出手術）

カスイタイ□ゼンヨー（下垂体前葉）

ナイテンキン□レッコー（内転筋裂孔）

ダイタイコツ□ケイブ（大腿骨頸部）

キカンシ□ゼンソク（気管支喘息）

カンケツセイ□ハコーショー（間欠性跛行症）

エネルギー□タイシャ（エネルギー代謝）

リハビリテーション□センター

アタマ□リンキュー（頭臨泣）

アタマ□キョーイン（頭竅陰）

5 ゴー□6 プ（五臓六腑）

インヨー□キョジツ（陰陽虚実）

キケツ□エイエ（気血榮衛）

ホキョ□シャジツ（補虚瀉実）

ソフト□コンタクト□レンズ

フクジン□ヒシツ□ホルモン（副腎皮質ホルモン）

ケイコツ□カカン□リューキ（脛骨顆間隆起）

チューシン□ジョーミャク□エイヨー（中心静脈栄養）

コーゲン□コータイ□ハンノー（抗原抗体反応）

シンケイセイ□キョーチョー（神経性協調）

インケイハイ□シンケイ（陰茎背神経）

インケイシン□ドーミャク（陰茎深動脈）

ジョーワンシン□ドーミャク（上腕深動脈）

キョーコツボー□リンパセツ（胸骨傍リンパ節）

ガンカジョー□セツコン（眼窩上切痕）

シナプスゼン□マッタン（シナプス前末端）

フクマクコー□キカン（腹膜後器官）

ダイインシンコー□レンゴー（大陰唇後連合）

カンセツホーガイ□ダッキュー（関節包外脱臼）

キンチョーセイ□ケイハンシャ（緊張性頸反射）

センイ□ガサイボー（線維芽細胞）

ケンコー□オージンタイ（肩甲横靭帯）

カンツイ□オージンタイ（環椎横靭帯）

ガンメン□オードーミャク（顔面横動脈）

サシンボー□シャジョーミャク（左心房斜静脈）

シキュー□コーカンマク（子宮広間膜）

ショーソク□シジョーミャク（掌側指静脈）

【注意1】複合名詞の構成要素の一部が動詞から転成したもの、または形容詞の語幹を含んでいる場合で、自立性が弱く区切ると意味の理解を損なうおそれのあるものは続けて書き表してもよい。

〔例〕 タチクラミ（立ちくらみ） ノリモノヨイ（乗物酔い）

キューアタリ（灸あたり） カラエズキ（空えずき）

オモダルサ（おもだるさ）

【注意2】漢字4字以上の漢語名詞で、自立可能な意味の成分の前か後ろに、副次的な意味の成分が一つ以上付け加えられたと思われるものは続けて書き表す。

〔例〕 ソーケイドーミャク（総頸動脈）

ナイケイドーミャク（内頸動脈）

ジョーダイジョーミャク（上大静脈）

チョーシクツキン（長指屈筋）

カジュゼツキン（下縦舌筋）

シンチュリンパセツ（深肘リンパ節）

ホーカシキエン（蜂窩織炎）

ショーニシンボー（小児鍼法）

ケンビキョーカ（顕微鏡下）

<u>ワンシンケイソー</u> （腕神経叢）	<u>ジョーセンショクタイ</u> （常染色体）
<u>フナイガイイン</u> （不内外因）	<u>イヒローセイ</u> （易疲労性）
<u>カガンカレツ</u> （下眼窩裂）	<u>コーシケツショー</u> （高脂血症）
<u>コーコレステロールケツショー</u> （高コレステロール血症）	
<u>テイ_{三三三三三}ケツショー</u> （低Ca血症）	

5. 自立可能な意味の成分に準じて扱う漢語的表現

この項で取り上げる漢語的表現は、通常単独で名詞となることはない。しかし、医学用語内部の切れ続きにおいては自立可能な意味の成分に準じて扱う。

（1）略語や略称を表す漢語的表現は、切れ続きにおいて自立可能な意味の成分に準じて扱う。

[例] トーシャク□カンセツ（橈尺関節）：橈骨・尺骨

カンジク□カンセツ（環軸関節）：環椎・軸椎

チョーケイ□ジンタイ（腸脛靱帯）：腸骨・脛骨

キョショーシュー□カンセツ（距踵舟関節）：距骨・踵骨・舟状骨

ケイケンハイ□ショーコグン（頸肩背症候群）：頸部・肩部・背部

センキョク□ジンタイ（仙棘靱帯）：仙骨・坐骨棘

センケッセツ□ジンタイ（仙結節靱帯）：仙骨・坐骨結節

キョーケンポー□ドーミヤク（胸肩峰動脈）：胸郭・肩峰

キョーフクヘキ□ジョーミヤク（胸腹壁静脈）：胸壁・腹壁

ガクゼッコツキン（顎舌骨筋）：下顎骨・舌骨

オートツキョクキン（横突棘筋）：横突起・棘突起

ケイトツ□ゼッコツキン（茎突舌骨筋）：茎状突起・舌骨

キョーサ□ニュートツキン（胸鎖乳突筋）：胸骨・鎖骨・乳様突起

シ□エンチョージュツ（肢延長術）：上肢または下肢

（2）神経や血管、その他対象物の所在・走行・方向・深さ・大きさ・長さなどを表す漢字2字以上の漢語的表現は、切れ続きにおいて自立可能な意味の成分に準じて扱う。

[例] ナイキョー□ドーミヤク（内胸動脈）

ジョーデン□シンケイ（上殿神経）

シンショー□ドーミヤクキュー（深掌動脈弓）

ジョーケイ□シンゾー□シンケイ（上頸心臓神経）

チョーキョー□シンケイ（長胸神経）

ケイオー□ドーミヤク（頸横動脈）

ビシャ□ジンタイ（尾斜靱帯）

コージュー□ジンタイ（後縦靱帯）

ジョーゼン□チャーコツキョク（上前腸骨棘）
ジョーコー□キョキン（上後鋸筋）
センコー□センビ□ジンタイ（浅後仙尾靱帯）
タンコー□センチャー□ジンタイ（短後仙腸靱帯）
ダイコー□トーチョクキン（大後頭直筋）
ウコー□ガイソクシ（右後外側枝）
チュージョー□シソーシ（中上齒槽枝）
カコー□ビシ（下後鼻枝）
コーカ□ショーノー□ドーミヤク（後下小脳動脈）
シンオー□チューシュ□ジンタイ（深横中手靱帯）
カセン□ソケイ□リンパセツ（下浅鼠径リンパ節）

（3）語尾にあつて漢字2字で形態や空間などを表す漢語的表現は、切れ続きにおいて自立可能な意味の成分に準じて扱う。

[例] リジョーキョキン□カコー（梨状筋下孔） ガンカ□カコー（眼窩下孔）
 ガンカ□カカン（眼窩下管） コーマク□ジョークー（硬膜上腔）
 クモマク□カクー（クモ膜下腔） ダイ□サコツ□ジョーカ（大鎖骨上窩）
 ソクトー□カカ（側頭下窩） ガイソクカ□ジョーリョー（外側顆上稜）
 3カクキン□カホー（三角筋下包） ケンポー□カホー（肩峰下包）
 チコツ□カカク（恥骨下角） キョーコツ□ボーセン（胸骨傍線）
 サコツ□チューセン（鎖骨中線） ケッセツ□カンコー（結節間溝）
 ケンコー□カンブ（肩甲間部）

Ⅲ 促音、数字表記について

1 促音

促音は、促音符を用いて書き表す。

〔例〕 オートッキ（横突起）	ケッカン（血管）
ケッショー（血漿）	ケンコー□セッコン（肩甲切痕）
コッタン□ナンコツ（骨端軟骨）	セッケッキュー（赤血球）
セッシ（切歯）	ゼッコツ（舌骨）
ゼッシツ（舌質）	ゼッタイ（舌苔）
ハッケツビョー（白血病）	ロッカン□ドーミャク（肋間動脈）

【注意】「キ」または「ク」で終わる字音が、次の字音と結合しているもののうち、次のような語は、結合の部分が促音化しているか、「キ」または「ク」の発音を保っているかにかかわらず、その部分をなるべく「キ」または「ク」と書き表す。また「ツ」で終わる字音が次の字音と結合して促音として発音されていても、意味の理解を容易にする場合には、促音符を用いず「ツ」と書き表してもよい。

〔例〕 キョクカキン（棘下筋）	セキキン（赤筋）
ソクカンセツ（足関節）	ダイタイ□チョクキン（大腿直筋）
チューソクコツトー（中足骨頭）	ハクキン（白筋）
ロクケイ□ドーミャク（肋頸動脈）	
コーシケツショー（高脂血症）	ナイゼツキン（内舌筋）

2 音で読まれる数の書き表し方

数量または順序を意味する語で、漢字音のまま発音する場合には、数字を用いて書き表すが、数量や順序の意味の薄れた慣用語では、意味の理解を妨げない限り、仮名を用いて書き表す。数を含む医学用語には、数量や順序の意味があるものが多い。

〔例〕 1 カイ□カンキリョー（1回換気量）	ガク 2 フクキン（顎二腹筋）
ガイソク□ケイ 3 カク（外側頸三角）	
ジョーワン□ 3 トーキン（上腕三頭筋）	3 サ□シンケイツー（三叉神経痛）
ダイ 4 □ノーシンケイ（第4脳神経）	1 2 シチョー（十二指腸）
5 0 カタ（五十肩）	3 三イン□ 3 ヨー（三陰三陽）
3 ショー（三焦）	5 コー（五香）
5 ゴー□ 6 プ（五臓六腑）	8 コー□ベンショー（八綱弁証）
キケイ□ 8 ミャク（奇経八脈）	1 4 ケイ（十四経）
カンツイ□ジュージ□ジンタイ（環椎十字靱帯）	

ゼン□ジュージ□ジンタイ（前十字靱帯）

3. ローマ数字

ローマ数字は、該当するアルファベットに外文字を前置して書き表す。それが大文字1字の場合には、外文字の後ろに大文字を添えて書き表し、複数のアルファベットすべてが大文字の場合には、二重大文字を添えて書き表す。ただし、大文字と小文字を特に区別する必要のない場合には、外文字の後ろの大文字や二重大文字を省略してもよい。

[例] $\begin{array}{c} \text{---} \\ \text{---} \\ \text{---} \end{array} \begin{array}{c} \text{---} \\ \text{---} \\ \text{---} \end{array} \begin{array}{c} \bullet \\ \text{---} \\ \text{---} \end{array} \begin{array}{c} \bullet \\ \text{---} \\ \text{---} \end{array} \begin{array}{c} \text{---} \\ \text{---} \\ \text{---} \end{array} \text{グン} \square \text{センイ (I a 群線維)}$

アンギオテンシン□ $\begin{array}{c} \text{---} \\ \text{---} \\ \text{---} \\ \text{---} \\ \text{---} \end{array}$ (アンギオテンシン II)

ダイ ☺☺☺☺☺☺☺☺☺☺ ☐ ノーシンケイ (第Ⅷ脳神経)

ガタ□アレルギー (Ⅳ型アレルギー)

Ⅳ 数字を含む経穴等の点字表記

数字を含む経穴等の書き表し方は、『日本点字表記法 2001年版』第1篇・第2章・第3節「数字やアルファベットなどを用いた語の書き表し方」6. および7. に従う。

1. 数字を含む経穴名

これらは仮名で書き表すことを原則とする。

[例]

督脈：ヒャクエ（百会）

大腸経：ジカン（二間） サンカン（三間） テサンリ（手三里） テゴリ（手五里）

胃経：シハク（四白） アシサンリ（足三里）

膀胱経：ゴショ（五处）

腎経：シマン（四満）

三焦経：シトク（四瀆）

胆経：ゴスー（五枢） チゴエ（地五会）

肝経：アシゴリ（足五里）

2. 数量や順序の意味が強い経穴名

これらは数字を用いて書き表す。

[例] 3  インコー（三陰交） 3 ヨーラク（三陽絡） 3 ショーユ（三焦兪）
4 シンソー（四神聡） 4 カ（四華） 8 ジャ（八邪） 4 ホー（四縫）
1 0 セン（十宣） 8 プー（八風） 1 7 ツイ（十七椎）

3. 要穴、組み合わせ穴の名称

これらは数字を用いて書き表す。

[例] 4 ソーケツ（四総穴） 8  エケツ（八会穴）
8 ソーケツ（八宗穴・八総穴） チューフー□7 ケツ（中風七穴）
カッケ□8 ショ（脚気八处）

4. 和語の数字を含む組み合わせ穴

これらは仮名で書き表す。

[例] ムツギュー（六つ灸）

V 同音異穴の点字注記

1. 経過

現在日本国内で使用されている「経絡経穴概論」の教科書には、WHOが定めた361の経穴が掲載されている。その中には、異なる経穴でありながら同じに発音するいわゆる同音異穴が17組含まれている。これらは漢字で表記すれば文字が異なるので一目瞭然であるが、漢字を用いない点字では読み手の理解を助けるために何らかの工夫が必要となる。

日本点字委員会はこの点に注目し、1994年開催の第30回総会でこの問題を取り上げ、研究討議の結果を『日本の点字 第20号』に「同音異穴の点字注記標準化についての提案」として掲載した。今回はこの提案をベースとしつつ、その後の時間経過の中で生じた幾つかの変化を考慮してこの稿を作成した。例えば、客主人の正式名称が上関に変わったことで、同音異穴が16組から17組に増えた。また、同字同音異穴であった竅陰・五里・三里・通谷・陽関・臨泣が、部位名を冠して、頭竅陰・足竅陰・手五里・足五里・手三里・足三里・腹通谷・足通谷・腰陽関・膝陽関・頭臨泣・足臨泣となったことにより、これら6組は同音異穴から完全に外れることとなった。

2. 注記の考え方

同音異穴を注記によって区別するという事は、経穴名以外の観点で説明して経穴を区別するという事にほかならない。その観点として次の四つが考えられる。

- (1) 経穴の国際番号
- (2) 所属経絡名
- (3) 部位説明
- (4) 漢字説明

これらのうちどの観点で説明するかは、その場の状況に応じて最も適切な観点を選ぶ必要がある。例えば、試験問題で経穴の所属経絡名を問うような場合、経絡名で注記するわけにはいかない。また、部位を尋ねる問題では、部位説明による注記は用いられない。書き手は、注記一般の原則である短く簡潔で分かりやすくを旨とし、その場その場に応じた柔軟な対応を求められることとなる。

次に、四つの観点について詳述する。

- (1) 経穴の国際番号

1989年にジュネーブで開催されたWHOの鍼用語標準化国際会議の決定に従うこととする。

（２）所属経絡名

経絡のフルネームは長いので、例えば「肺経」「大腸経」など臓腑名のみを含む短縮形で示すのが妥当と考えられる。

なお、天宗（肩）と天窓（頸）は、共に小腸経なので、「小腸経11」「小腸経16」のように番号を併記して区別することが考えられる。

（３）部位説明

同字同音異穴に関するWHOの呼称に準拠し、「手」「足」「顔」「腹」などの語で表すことが考えられる。

腹部と大腿部の境にある脾経の衝門は、「足五里」にならって「足」がよいであろう。「腹」では肝経の章門との区別ができない。同じように、臀部と大腿部の境にある膀胱経の承扶は「足」、腋窩にある心経の極泉は「手」がよいと考えられる。

また、肺経の少商と心経の少衝は共に手にあるので、肺経の少商は「親指（オヤユビ）」、心経の少衝は「小指（コユビ）」と細かく表現することが考えられる。

（４）漢字説明

少海と小海のように漢字１字だけが異なる場合は、その異なる１字だけを取り上げて説明し区別することが考えられる。承泣と商丘のように漢字２字とも異なる場合は、２字ともに取り上げて説明することが考えられる。

また、漢字説明の仕方については、次の優先順位が考えられる。

ア．常用訓のある漢字は、その常用訓

〔例〕曲泉（キョクは曲がる） 商丘（商う、オカ）

イ．その漢字を含む熟語

〔例〕衝陽（ショーは衝突のショー） 不容（不可能のフ、内容のヨー）

ウ．その漢字の部首など字形

〔例〕下脘（カンは肉月に完全のカン） 箕門（キは竹冠に代名詞のソレ）

エ．その漢字の意味

〔例〕懸釐けんり（懸ける、治める意味のり）

顴髎けんりょう（ケンほおほねは頬骨を意味する大貝のケン）

３．注記の具体例

（１）キモン

箕門：S P 11 脾経 足 キは竹冠に代名詞のソレ

期門：L R 14 肝経 腹 キは期日のキ

（２）キョクセン

極泉：H T 1 心経 手 キョクは極まる

曲泉：L R 8 肝経 足 キョクは曲がる

(3) ゲカン

下関：S T 7 胃経 顔 カンはセキ

下脘：C V 10 任脈 腹 カンは肉月に完全のカン

(4) ケンリ

懸釐：G B 6 胆経 顔 懸ける、治める意味のリ

建里：C V 11 任脈 腹 建てる、サト

(5) ケンリョー

顴膠：S I 18 小腸経 顔 ケンは頬骨^{ほおぼね}を意味する大貝のケン

肩髃：T E 14 三焦経 肩 ケンはカタ

(6) ショーカイ

少海：H T 3 心経 肘前面 ショーは少ない

小海：S I 8 小腸経 肘後面 ショーは小さい

照海：K I 6 腎経 足 ショーは照る

(7) ジョーカン

上関：G B 3 胆経 顔 カンはセキ

上脘：C V 13 任脈 腹 カンは肉月に完全のカン

(8) ショーキュー

承泣：S T 1 胃経 顔 承る、三水の泣く

商丘：S P 5 脾経 足 商う、オカ

(9) ショーショー

少商：L U 11 肺経 親指（オヤユビ） 少ない、商う

少衝：H T 9 心経 小指（コユビ） 少ない、衝突のショー

承漿：C V 24 任脈 顔 承る、将軍のショウの旧字体の下に水

(10) ショーフ

少府：H T 8 心経 手 少ない、大阪府のフ

承扶：B L 36 膀胱経 足 承る、扶養するのフ

(11) ショーモン

衝門：S P 12 脾経 足 ショーは衝突のショー

章門：L R 13 肝経 腹 ショーは文章のショー

(12) ショーヨー

商陽：L I 1 大腸経 手 ショーは商う

衝陽：S T 42 胃経 足 ショーは衝突のショー

(13) シンドー

神堂：B L 44 膀胱経 背外側 ドーは公会堂のドー

神道：G V 11 督脈 背正中 ドーはミチ

(14) チューリョー

肘髎：L I 12 大腸経 手 チューはヒジ

中髎：B L 33 膀胱経 尻 チューはナカ

(15) テンソー

天宗：S I 11 小腸経11 肩 ソーは宗教のシュー

天窓：S I 16 小腸経16 頸 ソーはマド

(16) フヨー

不容：S T 19 胃経 腹 不可能のフ、内容のヨー

跗陽：B L 59 膀胱経 足 足偏に付属のフ、陰陽のヨー

(17) ヨーコー

陽綱：B L 48 膀胱経 背 コーはツナ

陽交：G B 35 胆経 足 コーは交わる

4. 注記の付け方

(1) 注記を文中に入れると文の流れを中断することになる。そこで、必要最小限度にとどめ、入れる場合も短く簡潔にを大原則とする。

(2) 同音異穴であっても、前後の文脈から明らかにその経穴を特定できる場合は、注記を入れる必要はない。また、同じ経穴が繰り返し出てくる場合で、最初に注記すれば足りる場合は、後の繰り返しには注記を付ける必要はない。

(3) 注記の前後は、点訳では点訳者挿入符、書下ろしなどではカッコ類でくくる。なお、書下ろしなどで、墨字版と点字版に共通の説明カッコを第1カッコで表しており、それと注記のカッコを区別したい場合は、第2カッコや点訳者挿入符などを用いることができる。

(4) 注記の位置については、次のように考えられる。

ア. 経穴名の直後に付けることを原則とする。

[例] 極泉（心経） 天窓（小腸経11） 期門（腹）

小海（ショーは小さい） 少商（少ない、商う） 不容（S T 19）

イ. 文の流れを損なわないために、注記を経穴名の前におくこともできる。

[例] （肝経の）章門 （顔の）懸釐

ウ. 経穴名の直後に文中注記符を書き、欄外などに注記の内容を記載する方法もある。

5. 今後に向けて

点字であるがゆえに同音異穴の取り扱いにおいて不利益を被ることがあるとすれば、それはまことに由々しいことといわざるを得ない。極力そのようなことのないよう、条件整備に努めなければならない。試験問題・指導用教材・教科書・専門書などに携わる方々に活用していただければと願う次第である。

VI 漢方薬などの名称の切れ続きについて

漢方薬は一般に漢方医学における薬物として用いられ、5～15味の生薬を組み合わせ、主に湯剤（煎剤）として服用されるものである。

漢方薬の調合素材である生薬は日本薬局方において動植物の薬用とする部分、細胞内容物、分泌物、抽出物、または鉱物などで医薬品として173品目が収載されている。いわゆる草・根・木・皮や犀の角・熊の胆などの類で自然物を薬用として用いる点に特徴がある。

これらの漢方薬関係の用語の切れ続きは、基本的には以下のように行う。

1 生薬名の切れ続きについて

生薬の名称には生薬の産地や製造法などを素材名の前に付したものがあるが、多くは漢字1字・2拍以内であるので切らずに表記する。

〔例〕 ワソージュツ（和蒼朮） ドニンジン（土人参）
サンシャクヤク（山芍薬） カラモッコー（唐木香）
ヤキクカ（野菊花） ホーブシ（炮附子）

2 漢方薬名の切れ続きについて

漢方薬の命名は調合される生薬や調合方法あるいは煎じ薬・丸薬・粉薬など薬物の方式などを表現しているものが多い。

【調合する生薬に付属される用語例】

前置されるもの：加減、加味

生薬の間に配置されるもの：加、去、合

後置されるもの：丸、散、湯、飲、飲子、丸料、丹料

そこでこうした命名の意味が判読できることを基本として、以下のように書き表す。

（1）前置・後置されるものについて

ア．漢字1字2拍以内は切らないで続ける。

湯、散、丸、膏、丹、飲などは前の語に続ける。

〔例〕 ケイシトー（桂枝湯） マフツサン（麻沸散）
8ミ□ジオーガン（八味地黄丸）

イ．漢字2字以上・2拍以上は区切る。

加減、加味、飲子、飲料、丸料、丹料などは前後を区切る。

〔例〕 カゲン□シャハクサン（加減瀉白散）
ケイシ□ブクリョー□ガンリョー（桂枝茯苓丸料）

カミ□ショーヨーサン（加味逍遙散）

ウ．生薬間に配置される文字＝加、去、合など

前後の生薬の調合法を示している語は、漢字１字であっても意味を確実にするため前後を区切る。

[例] ケイシ□キョ□シャクヤク□カ□ショクシツ□ボレイ□リユーコツ□

キューギャクトー（桂枝去芍薬加蜀漆牡蠣竜骨救逆湯）

ショーサイコ□ゴー□ハンゲ□コーボクトー（小柴胡合半夏厚朴湯）

ただし、生薬の名前に加、去、合の文字が含まれているものは続けるよう留意する。

[例] ビャクゴー□ケイシトー（百合鶏子湯）

（２）生薬名が複数並んでいる場合の切れ続き

生薬名が複数並んでいる場合には、一生薬名ごとに区切る。

また、生薬名の１字を取って並んでいる場合も区切る。

[例] アキョー□ケイシオートー（阿膠鶏子黄湯）← 阿膠 鶏子黄

リョー□カン□キョー□ミ□シン□ゲ□ニントー（苓甘姜味辛夏仁湯）←

茯苓、甘草、乾姜、五味子、細辛、半夏、杏仁

（ブクリョー カンゾー カンキョー ゴミシ サイシン ハンゲ キョーニン）

（３）人名に氏が付いている漢方名の切れ続き

人名に氏が付いている漢方名の氏は続ける。

[例] シンシ□カツ□ボクトー（沈氏葛朴湯）

（４）数量の意味が薄れた語や生薬名の数字の書き方

数量の意味が薄れた語や生薬名の数字は、仮名で書く。

[例] ジューゼン□ダイホトー（十全大補湯）

リョー□カン□ゴミ□キョー□シントー（苓甘五味姜辛湯）